
正義の光・暗黒の闇

KID OS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の光・暗黒の闇

【Nコード】

N2381D

【作者名】

KID OS

【あらすじ】

闇は蘇り、光は覚醒する。時を越え、たった1つの存在が運命を司る。

序章：闇と光の覚醒（前書き）

初めてです。小説を書いたのは。

序章：闇と光の覚醒

闇・・・

それは光と共にこの世に生まれ光の影として存在する。
そしてそれを恐れしものは正義という光を求めてきた。

しかし、力なき正義に頼ったものは自らの力を使うことはない。

そのため、力という物を知ることなく生きてきた・・・

人類として例外ではない。

力の無き者は正義という光を振りかざし生きている。

そして心無き者は悪という名の闇へと誘われていく。

しかし、闇の力を操って一度闇を不完全ながらも消し去ったものがあった。

闇は消えなかったが、闇という存在が不滅ではない事を示した。
正義の可能性と共に・・・

だが、闇は力を増幅し再びこの世に蘇った。

そう、暗黒の闇を消し去ったものに復讐を誓って。

『絶望の淵に立たされし力無き者。もうこの世の運命は定まっている。貴様らにこの運命を変える力はない。もう逃れられはしない。』

私の力の根源である闇を葬り去った者共よ。次は貴様らに私の受けた苦痛を味わってもらおうか。』

この世の絶望が近づく中、たった1つの存在により光は覚醒する。

闇を完全に滅ぼす可能性とともに・・・

第2章：たった1つの存在（前書き）

主人公の性格がさだまらない・・・

第2章：たった1つの存在

30XX年 某日 X系 第7惑星。

・・・俺の名前はルイス・カーバイン。

シーマイン高校に通う高校3年生だ。

特にとびぬけて凄いといえる事はないだろう。
どこにでもいるような高校生である。

特技は年に1度行われる騎士の祭典>>ナイト・フェスティバル<<。

ちなみに騎士の祭典とはいろいろな武器を使い戦うものだ。
そしてその武器はデータとしてカードに保存されている。

そのカードを選手の精神力によって実体化させることで武器を使う
事が出来るようになる。

俺はこの大会で2回の優勝を果たした事がある。
そしてそこで貰った物がただの透明なガラスの板だった。

なぜそのようなものが賞品となっていたのかは分からない。

しかし、自分の記念となるものだったので今でもそれは大切に取
ておいてある。

何に使うかも分からない。
そもそもこれの使い方も分からない。

だが、これをもらった時にいわれた事が
『これにはある力が秘められている。それを使いこなすも使いこな
さないも貴方しだいだ。』
という内容の事である。

いったい何のことなのだろうか。

今でもその言葉の意味は分からない。

だが・・・

このカードには何か特別な・・・

そう、『氣迫』というべきものを感じる。

不思議なものだ・・・

この俺がまさかこんなちっぽけな1枚のガラスの板に氣迫などとい
うものを感じるとは・・・

まったく・・・

おれも焼きが回ったものだ。

第3章：光よりいでし者（前書き）

ん
ん
ん。

大丈夫かね・・・

第3章：光よりいでし者

そこは暗闇に覆われて一面が闇に包まれていた。

『ん．．．？』

ここはいつたい．．．？

私は．．．？

どうなっているんだ．．．』

突如入ってくる一筋の光。

そこへと向かうひとつの者。

そして光へと存在は動く。

まるで何かに操られるかのように．．．

闇から脱出する者。

『一体さっきの体験はなんだったんだ．．．』

ふと自分の手のひらを見る。

手には人間としての血色は無く、それはまるでガラスのように透き通っていた。

また、周囲を見渡しても見える光景は変化することなく光の中に存在していた。

『なぜ・・・？』

突如現れた者が1人。

『ここは天空の聖域>>ヘブンズ・サンクチュアリ<<。現世より訪れし魂が集いし場所・・・』

『魂の集いし場所？！ということとは・・・
私は死んでしまったという事か！！そういうことなのか！！』

『他の世界では、そういうことになっている。
そして、そうなってここに来たものは自らの運命というものに従わなければならない。』

『そ・・・ そんな馬鹿なことがあるか！！
わ・・・ 私は一体どうなってしまふのだ！！』

『案ずる事は無い。
お前の行動が正しなければきっと運命を支配する事も可能だろう。』

『運命を支配する？？
そんなことは不可能だ！
私は知っている。
運命というものの過酷さを！
そして運命の残酷さを！！』

『いや、それは違う。
現にお前は現世にて運命を自分の力で変えたことがあるだろう。』

『な・・・』

そんなことをした覚えはないが・・・」

「確かにお前は気づいていないかもしれないがな。
お前の行動は天空の聖域では奇跡と崇められている。
お前にとっては偶然なのかもしれないが・・・」

「なに・・・
となると・・・」

沈黙は語る。

この先に続く過酷な現実と、わずかな希望を・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2381d/>

正義の光・暗黒の闇

2010年11月17日04時55分発行